

深礎工 古屋直樹

これは建設業界に限ったことではないが、専門性の高い仕事はその道のプロに任せるのが最善という考え方が根強く、「何でもできる」などというところ却って信頼されないこともある。そんな業界の常識を、パラグアイ生まれの日系人職人が変えようとしている。さまざまな工事・作業を経験しながらノウハウを身につけていき、現場でのあらゆる工程にも対応できる「マルチ職人」をめざす深礎工に、その真意を話してもらった。

十八歳でパラグアイから来日

深礎工・古屋直樹は、南米・パラグアイの出身。一九八五（昭和六十）年に、日本人の父とパラグアイ人の母の間に生まれた。十八歳で高校を卒業するまでは現地で暮らしていたが、そのころ日本で働いていた父が病気になる、仕事を手伝えるために来日。古屋にとっては、日本に来ること自体初めてのことだった。

「日系人がたくさんいる町に住んでいて、子供のころからスペイン語と日本語両方を勉強してきました。家の中でも両方が飛び交ってたんで、

言葉に関しては全く不自由しませんでしたね。自分としては、高校出たらそのまま地元の大学に行くつもりで、日本に来る予定は全然なかったんですけど…」

最初は父が働いていた工場で携帯電話の基板を作る仕事に就き、その後いったんパラグアイに帰国し、大学に進学したものの、学費が続かずに断念。再来日して、今度は印刷機を組み立てる工場に入った。ここで、機械の据付を担当する「重量工」の職人と出会ったことが一つのきっかけとなる。

「うちらが組み立てた機械、何十トットあるんですけど、それを注文先まで運んで据え付ける。工場で毎日同じ機械の組み立てを繰り返すよりずっと魅力的に見えて…」

ここで、機械の組み立てから建設業界へと転身することになる。

職を転々としながらのスキルアップ

「その機械の取り付けを専門にやる鳶さんの仕事から始まって、鍛冶屋、深礎、アンカー…」

KEEP

守り、伝えること

「必要なもの、やるべきことを常に考える。
頭の回転がよくないと務まらない仕事」



左／耐震補強の現場前にて、古屋、鉄建建設・丸山哲則所長。

中／人力で土を掘る時に使うスコップや、バラストなどの石を掘る際に使う道具類。

右／現場の入口は駅構内にあるが、柱の耐震補強はほとんど人目に触れないところで行われる。





現場のプロフェッショナル KEEP & CHANGE

会社もいろいろ変わりました。現場によって変わることがまるで違うから、行く先々で常にステップアップしていくような感じですよ」
「同じ現場は二つとない」というのは業界では周知の事実だが、まさにいろいろな現場で初

めて見る作業や機械・道具に触れ、その仕事の多様さ・面白さに目覚めていったのだった。
「やり始めたころはやっぱり頭がついていなくて苦労しましたよ。先輩たちは二手、三手先を読んで作業してるのに、自分は目先のこと

でやっただから、そこで怒られたり。何が必要か、何をやるべきかいつも考えてるから、頭の回転がよくなりますよね、この仕事は」
現場が変わるたびに携わるさまざまな作業を経験し、「マルチな」職人となっていた。

これまでの経験を全て活かせる仕事

現在、古屋はJR上野駅の耐震補強工事現場に勤務している。担当は深礎工と耐震。

「深礎工っていうのは簡単に言えば穴掘りですね。機械が入れないようなところを人力で、ひたすら五層も一〇層も掘っていくんです。腕や背中がパンパンになりますよ」
「穴を掘る」といえば単純な労働に思えるが、線路閉鎖中の短時間で終わらせなければならず、深く掘れば酸欠や地下水流出などの危険も伴う。

「地下水が出そうな時は薬液を注入して周りを固めるんですけど、それが効かなくて吹き出す時が怖いですね。水位より深く掘っていたら出てきた水がその高さまですぐに来ますから」
それでも、今の現場での仕事がこれまでで一番充実している、という。

「普通はやらないんですけど、他職どうしで手伝ったり教えたり一体感があるし、なおかつ自分がやってきた仕事がまとまっている感じなんです。土工関係を全部やるような作業なので」

各自の専門分野にこだわらず、全員が何でも協力しあう。作業所の鉄建建設・丸山哲則所長も、その空気を作った一人だ。
「土木工事っていうのはけっこう何でもできないといけないところがあるし、彼自身もいろんなことにすごく興味を持ってやるので、任せてみたんです。みんなを仕切りながら本当にうまく立ち回っていますね」

いつかはマルチ職人を集めて独立を…

「ものづくりの魅力もあるし、子どもに誇れる仕事だし、自分にすごく合ってると思います」
「いずれは『餅は餅屋』っていうのがなくなっていくって、自分がめざしてるようなマルチでもできる職人さんをたくさん集めて会社起こして、いろんな現場を回っていききたいですね」



左/既存のコンクリート柱に鋼板を巻きつけて耐震化した。
「鋼板巻きっていうんですけど、これは今回の耐震工事で初めてやらせてもらって、面白いな、と」
右/柱の基礎を出す部分では、柱を傷つけないよう機械でなく人力で掘る。
深礎工の本来の職分はこの分野だ(提供:鉄建建設(株))。



ふるや・なおき◎1985(昭和60)年、バラグアイ・オエナウ生まれ。現地の高校を卒業後、父を手伝うために来日。その後建設業界で多くの現場に携わりながら経験を積み、さまざまな技術を習得。職長として作業員の管理はもちろん、日・西・葡語が堪能なため、外国人労働者のまとめ役ともなる。

CHANGE

応じ、変えること

「いろんな現場での経験を活かせる仕事。
何でもできるマルチな職人をめざす」